

第 70 回国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール東京都大会 銀賞

東京都立清瀬高等学校 2 年

本田 留莉

課題②

本次期国連総会において、あなたが一般討論演説を発表するとしたら。

副題

愛があれば世界は変わる

私はジンベエザメを愛しています。ジンベイザメではありません。ジンベエザメです。大きな体にかわいらしい水玉模様をあしらって、小さな魚たちと共に泳ぐ姿は、サメは恐ろしいという固定概念にとらわれていた私にはとても衝撃的でした。そして何と言っても、大きな体とは対照的な、小さなプランクトンが主食というギャップにやられてしまいました。こうして当時 9 歳の私は旅行先の沖縄でジンベエザメに初恋をしたのでした。しかし私は、そんな初恋の相手であるジンベエザメを殺してしまいました。そして絶滅危惧種にまで追いやってしまいました。つまり私はジンベエザメを殺した殺人犯なのです。ビニール袋、ペットボトル、ストロー、皆さん、普段、普通に使いますよね。この質問に「はい」と答えた皆さんは、私と同じ殺人犯です。1、2、3、4、今、地球で 100 グラムのマイクロプラスチックが流出しました。マイクロプラスチックとは街へ出たプラスチックが川などを流れ海にたどり着き、波などによって碎かれることで流出する 5 ミリ以下のプラスチックのことを言います。そして、そのマイクロプラスチックは 4 秒間に 100 グラムずつ増え続け、年間で 800 万トンも新たに流出されています。ではなぜ 5 ミリにも満たない小さなプラスチックが、ジンベエザメを絶滅の危機にまで追い詰めたのか。それはジンベエザメの食事方法が関係しています。ジンベエザメはフィルターフィーダー、つまり海水ごと餌を呑み込み、エラについている鰓耙(サイハ)を使ってプランクトンをこし取り食事をする。言わば、ろ過食をする生物です。では皆さん、想像してみてください。ジンベエザメのようなフィルターフィーダーが海水に漂うマイクロプラスチックを呑み込んでしまったら。そうです、鰓耙がマイクロプラスチックを捉えて、呼吸をするエラが機能しなくなってしまうのです。人間に置き換えて考えてみると、ノドに何かが詰まってしまい息ができないような状態を指します。このようにしてジンベエザメは絶滅危惧種Ⅱ類に指定されてしまいました。私は、そんな私たちが間接的に殺し続けているジンベエザメを放っておいてはいられません。“No one will be left behind”、誰一人取り残さない。違います。一匹たりとも見捨ててはいけません。

私はこの目標を達成するため、今回、1 つ提案をします。それは溶ける素材であるオブラートで代替プラスチックを作ることです。ビニール袋が有料化されだいたいビニール袋を使う人が減ったと感じています。実際に私の家族はエコバッグを必ず使うようになりました。ですが、ある日、母が買い物をしたエコバッグを見てみると持ち手の付いていないポリ袋に入った野菜や肉のパックが多く見受け

られました。一回の買い物で 5~7 枚ほど使用されているのです。このことから私はビニール袋は削減できてもポリ袋は削減されていないのではないかと考えました。母にポリ袋を使用しないことを提案してみましたが、野菜などの傷みやすい商品を保護するためにもそれは難しいことだと言っていました。そこで私は考えます。スーパーのポリ袋のロールをオブラートで作ったラップのロールに代替すれば良いのではないかと。オブラートはプラスチックほどの強度を持っていないため袋にするのは難しいと思います。なので、ラップという形に変える必要があります。皆さん、ここまでの話を聞いて私がなぜここまでオブラートに執着するのか疑問に思った人もいないのでしょうか。その疑問の答えは、オブラートがでんぷんで出来ているため芋、米、小麦などから作ることができるからです。日本は食品ロスが多い国です。そして食品を捨てることは大気にも悪影響を及ぼします。そのため、捨ててしまう食べ物から代替オブラートプラスチックを作ることができれば陸と海の両方の環境にやさしいプラスチックを作れると私は思います。海の生物は私たちに観光資源や水産資源を与えてくれます。それに対し、私たちは害ばかり与えています。これはフェアな関係とは言えませんよね。国連は全ての人が健康増進、保護するために設立されましたが、果たして自分たちよりも弱い存在を守れない私たちに、自分の健康を守れるのでしょうか。

このままでは私たち人間が絶滅危惧種となりレッドリストにのる未来もそう遠くはないのです。愛があれば何でもできる。愛という魔法に勝るものはない。愛の力で環境問題を解決しよう。私がスピーチをしている間にも 9 キログラムのマイクロプラスチックが増え続けていますよ。今できることを今この瞬間から。

ご清聴ありがとうございました。